

知る！食べる！見つける！ 畑deマルシェ

大地で育まれ笑顔に



愛知・知立市 NPO法人かきつ畑♪

【愛知】都市と農業が共生するまちづくりをめざす「NPO法人かきつ畑♪」は、知立市の知立文化広場で7月7日、「畑deマルシェ」を開催。「顔の見えるつながり」をめざして、地球環境に配慮した生産活動を紹介します」をテーマに、地元産野菜の販売やクイズラリー、四つ葉の

「七福醸造(株)」など5店が出店し、多くの子ども連れが来場した。

当日は、七夕のため短冊に願いごとを書いたり、体験コーナーでは米の消費を促すための子ども向けおにぎり作りや、野菜の花や葉の押し花を使ったしおり作りが行われた。

また、同法人が主催する「畑de学校」の子どもたちが遊休農地を活用して育てたハーブの一種のローゼルを加工した「ローゼルアイススクリーム」も販売した。

同法人では、都市と農村の共生に向けたイベントを今後も予定しており、子どもたちに農に関わるきっかけ作りをしていきたいとしている。



⑤展示や体験コーナーにぎわう会場、⑥しおり作りを楽しむ子どもたち

就農のメリット実感

「ひょうごで就農」セミナー・相談会



多くの参加者でにぎわった相談会

竹利用の笹飼肥料増産へ

宮崎 大和フロンティア 新富町に新工場

【宮崎】竹を材料とした飼料の「笹サイレージ」を製造・販売する大和フロンティア(株)(都城)は、昨年、新富町に製造成工場を建設した。工場では、放置竹林で伐採し

【兵庫】県、ひょうご就農支援センター、(公社)ひょうご農林機構、JA兵庫中央会は6月22日、就農希望者向けセミナー・相談会の「ひょうごで就農」を開催した。会場の神戸国際会館セミナーハウスには、朝から多くの就農希望者が来場。各市町や農業法人などの出展ブースを訪れ、

熱心に相談していた。宝塚市から来た男性(47)は「初めて参加したが、いろいろなアドバイスを受けることができ、参考になった」と話す。

また、セミナーでは小野市で就農した池田陽さん(31)と丹波市で就農した小林夢芽さん(25)が就農体験を披露。池田さ



粉碎機で竹をチップ化

るピーマンやキュウリなどで使用する農家が増えている。

同社代表の田中浩一郎さんは「社会問題になっている放置竹林問題の解決と農畜産業の振興に切り組んでいる」と話し、「地域の未利用資源である放置竹林を利用した飼肥料で国内飼肥料自給率を向上させ、さらなる農畜産業振興につなげたい」と意気込む。(新富町農業委員会)

高品質なブランドをめざす

広島・府中市 林新二さん

G7サミットで認められたアスパラ生産

【広島】2021年4月に府中市上下町で就農した林新二さん(34)は、農園名を「上下七色農園」と名付け、アスパラガスをメインにオリジナルブランドで認知される野菜づくりをめざしている。

林さんは、JA全農ひろしまがアスパラガス栽培の実践研修を行う「チャレンジジファーム広島・上下農場」の第1期生として、技術などを学ん

だ。現在はアスパラガス(ハウス7棟24畝)とキヤベツ(95畝)を栽培している。

アスパラガスは、市場出荷のほか、道の駅「びんご府中」やAコープ上下店で農園のロゴシールを貼って直売している。

林さんのアスパラガスは、昨年広島市内で開催されたG7広島サミットの夕食の前菜として使用された。一流シェフからも認められたことから「今後はオリジナルの化粧箱をつくり、新たな販路としてネット販売やふるさと納税の返礼品に登録し、高品質なアスパラガスを作りたい」と語る。



①農園のハウスで林さん、②林さんが作成した農園のロゴ



林さんは「これからアスパラガスの栽培は、昨年広島市内で開催されたG7広島サミットの夕食の前菜として使用された。一流シェフからも認められたことから「今後はオリジナルの化粧箱をつくり、新たな販路としてネット販売やふるさと納税の返礼品に登録し、高品質なアスパラガスを作りたい」と語る。

規格外品をエダマメパウダーに 大阪府立環境農林水産総合研究所



試験販売を始めるエダマメ風味せんべい

【大阪】(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所は、府内の民間企業と連携して、八尾市特産の「八尾えだまめ」を粉末加工したエダマメパウダーを開発した。

同研究所が毎年1回募集しているテーマ設定型共同研究で、昨年度は規格外品の加工をテーマに募集したところ、事業者か

ら提出されたエダマメパウダーのアイデアが採択された。

原料に用いるのは一粒莢などの規格外品。ゆでて豆を莢から取り出し、乾燥させて粉末加工を行い完成する。せんべいの味付けに使用するシーズニング(乾燥調味料)などで活用される。

豊富なアミノ酸と大豆由来の成分が含まれるエダマメパウダーは、エダマメの風味とうまみが楽しめる。エダマメパウダーで味付けされたせんべいは7月中下旬に、八尾市の老舗(米菓桃乃屋で試験販売を開始する。

エダマメパウダーの開発に携わった高井雄一郎主幹研究員は「粉末として幅広く使える商品が完成した。せんべい以外にも総菜やお菓子などにも使用されるようになってほしい」と話す。

大区画化と収益性向上に挑戦



福岡・筑紫野市 三水うまいち

【福岡】筑紫野市の農三水うまいち(榎木明代表、70)は、2012年8月に設立。構成員17人、オペレーター6人と常時雇用2人で経営を行っている。写真。生産性向上とコスト削減をめざし、大型機械を

導入するため圃場の畦畔を取り除くなどの大区画化を進めている。これによって夏場の草刈り作業などの負担軽減にもつながっている。

近年では収益性の高い経営に向け白ネギ、枝豆、アスパラガスなどの作付けを開始。これらの野菜は減農薬栽培を行っており、除草作業は福祉施設利用者に依頼するなど農福連携にも取り組んでいる。また、白ネギとアスパラガスは地元の学校給食にも提供している。

榎木さんは「これからも地域から信頼され、必要とされる『誇れる』法人経営をめざしていきたい」と熱く語る。

体験交流し対策を意見交換

鳥取県で熱中症対策研修会

【鳥取】県、県農作業安全・農機具盗難防止協議会、鳥取産業保健総合支援センターはこのほど、「令和6年度熱中症対策研修会」を県内3カ

で緊急搬送される件数も増加。農作業の熱中症対策を目的に農業者や従業員、農業経営者などを対象に開催した。

支援センター相談員で田岡労働安全衛生コンサルタント事務所代表の田岡隆夫さんが「熱中症による労働災害を防ぐため



熱中症対策グッズを体験する参加者

実際に体調不良になった経験や、毎日の体調報告や休憩時間の確保、複数人による作業での体調確認

地方総合

各地の話題

協議会では、今後も全対策の研修を予定している。

【香川】三木町で花きを生産・販売する(株)F・U・KAGAWA(石原和昭代表取締役)は、キイチゴの新品種「いろは」の生産と出荷に力を入れており、年間10万本ペースで全国各地の市場に出荷している。



栽培ハウスで収穫前のいろは

※フラワー・オブ・ザ・イヤータンポポラ賞に選ばれた花きの出荷を奨励しようと、国内最大手の花き卸売会社、1年間に流通した20万点の中から新商品奨励賞など全4点を選び毎年表彰するもの。